



ごみの量は減った？

右のグラフを見ると、徐々にごみの量が減っていることが分かります。特に、プラスチック包装と紙製容器包装の分別収集を本格的に開始した、平成18年度から19年度にかけて可燃ごみの量が大きく減少しています。

これは可燃ごみとして処理されていたものが、資源ごみとして資源化されたためです。人口が減少しているのに、全体のごみの排出量も必然的に減りますが、今のところ順調に推移しています。今後、さらなる分別収集の充実を図り、資源ごみの収集率を高めていく必要があります。

また、ごみの排出量はその年の景気や時勢を反映します。昨年は猛暑のため、空き缶やペットボトルの排出量が増加しました。今年も暑い日が続きそうですので昨年と同様にこれらのごみが増えるのではないかと予測されます。ごみを出す際には分別の徹底をお願いします。

分別収集されたごみはどうなる？

各地区のごみステーションから出された可燃ごみはクリーンセンター朝来事業所に集められ、焼却処理されます。

焼却はダイオキシンなどの有害物質が出ないよう、800度以上の高温で処理され、焼却後の灰はクリーンセンター山東事業所に運ばれ埋立処分されます。

不燃ごみは、クリーンセンター山東事業所に集められ、破碎処理や埋立処分されます。破碎処理の前には分別作業を行い、資源として再生できるものは取り除きます。

資源ごみは、きちんと分別収集され、いったんクリーンセンター山東事業所で保管します。山東事業所の職員の手により、可能な限り選別や洗浄を行い、中間処理業者に引き渡します。テレビなどで、せつかく分別したごみを結局資源化せずに焼却してしまうといったような報道を耳にすることがありますが、朝来市ではそのようなことはありません。

さらに、中間処理業者により、選別・圧縮・梱包などの作業を経て、再生処理業者に引き渡され、商品や原料として生まれ変わります。

単なるごみと思われがちですが、混ぜればごみ、分ければ資源です。集められた資源ごみを分別し、処理業者に引き渡すことにより収入を得ることができます。平成20年度には年間約1,964万円、平成21年度は約1,067万円、平成22年度では、約1,640万円の収入がありました。

このように、皆さんの分別のご協力はそのままごみの資源化につながるのです。

生まれ変わったプラスチック包装



■資源ごみから得られた収入

平成18年度	10,763,821円
平成19年度	15,487,548円
平成20年度	19,640,757円
平成21年度	10,679,021円
平成22年度	16,401,202円